

令和8年度 学校「学ぶ力」育成プログラム

自ら課題を見付け、自ら学び、自ら問題を解決する資質・能力

学校番号：26021

「学ぶ力」	
実態	成果
	<p>◇児童アンケートの「見通しをもった学習」は、「はい」という回答の割合が 45.4%と 1 時間の学習や単元のイントロダクションで「したい」を生みだそうと授業を改善してきた成果が徐々に表れてきた。</p> <p>◇ICT の効果的活用については、児童アンケートの「学習のためにクロームブックを生かしている」で、「はい」という回答の割合が児童 88.0%となっており、実際の授業でも多様な活用がなされてきた。</p>
	<p>◇基礎学力・学習習慣づくりについては、学力テストの国語「書く」「読む」、算数「数と計算」「図形」の領域で、全ての学年が全国平均を大幅に下回っている。</p> <p>◎自発的な問いを生む「イントロダクション」や自力解決につながる見通しのもち方。</p> <p>◎板書とノートの連動による思考の言語化や深化、学びの定着と振り返りの習慣化、粘り強く取り組む学びの姿勢の定着。</p> <p>◎朝活動で読書の時間を確保。活字への抵抗感軽減。読書環境の向上。</p> <p>◎学習習慣の定着に関わる、家庭との連携。</p> <p>◎朝活動や授業とのつながり（基礎基本の読み書き、計算の定着）。</p>
	<p>「学ぶ力」の基盤〈協働を通して磨く 相互承認の感度〉の現状と課題</p> <p>◇重点目標を「幸せ感じる学校」の基、子ども一人一人が「自分が大切にされている」と実感できるための取組を行ってきた。「ふわふわ見つけた！」カードで相互承認の機会を定期的に設定した。また、「心の声アンケート」を通して、児童の実態の把握と改善に向けた関わりを行ってきた。しかしながら、児童アンケートでは「自分のよいところをわかっている」ことに対する肯定的回答の割合が 66.7%に止まった。今後も、日常の授業や学年ブロック、異学年交流、児童委員会・クラブ活動など、学校教育全体を通して相互評価を行う場、その評価・よさを全校に広める場を意図的に設け、自分のよさに気づき、自己肯定感が高まるようにしていく。</p>
<p>「学ぶ力」の育成のために着目する資質・能力</p> <h2>子ども自身が「したい！」と思い、動き出す子</h2>	
	<p>課題探究的な学習の推進 に向けて</p> <p>◇イントロダクション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「子ども自身の学びの成立」を目指し、単元や本時の初期段階に学習の見通しをもたせり、子どもが「おもしろそうだな」「楽しみだな」という工夫を凝らす。 <p>◇個別探求・協働単級</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どの子ども学ぶことのよさを感じることができるよう、個々の発達や課題に応じて、学習内容や進め方を最適化する。 <p>◇リフレクション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子ども自身がよさや高まりを実感し、次の学びに向かう姿を目指し、単元を通して適時適切に「振り返り」を行う。
	<p>自治的な活動の充実 に向けて</p> <p>◇よりよい学級を目指す学級活動</p> <ul style="list-style-type: none"> →学級の様々な課題を議題にした学級会の実施 <p>◇よりよい学校を目指す委員会活動</p> <ul style="list-style-type: none"> →学校全体のために計画し実行する委員会主催の活動、定期的に各委員長と校長による懇談、擦り合わせの実施、自己決定・社会性の醸成を図る関わり <p>◇身近な環境問題と向き合う総合的な学習</p> <ul style="list-style-type: none"> →6年生が発信したエコスクール宣言に基づき、各学年・学級が自主的かつ工夫して取り組む SDGs アクション
	<p>「学ぶ力」の育成の一層の充実を図る ICT の活用について</p> <p>◇「一斉・個別・協働」を同時・並行的に実現しつつ、思考の整理としての「紙に書く」と相手意識に基づいた「タイピング」を効果的に使い分ける。</p>

<本プログラムの実行に向けて>

